

学校教育目標の実現を目ざす営みを 確かなものに

～組織的・継続的に改善し、協働できる学校評価を目ざして～



令和7年2月

豊橋市立栄小学校

1 はじめに

保護者の皆様には、日頃から本校の教育活動に対して、ご理解とご協力をいただきありがとうございます。またこの度は、アンケート調査にご協力をいただきありがとうございました。学校評価はそれ自体が目的ではなく、学校教育目標の実現に向け、教育活動がどれだけ有効に行われたかを幅広い角度から見直し、学校全体の教育力を高めるための手段と考えています。また、その結果を公表していくことで、学校としての説明責任を果たすとともに、学校と関わる人々との課題克服に向けた協働体制をより強化したいと考えています。

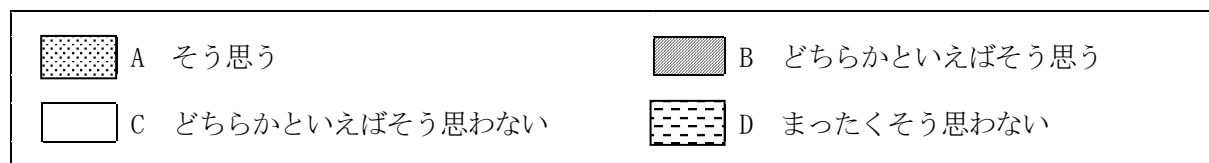
このような考えから本校では、児童・保護者・職員の三者によるアンケート調査を実施して18年目を迎えました。今年度も昨年度に引き続き、学校生活の主体者である児童によるアンケートを2回、保護者の皆様によるアンケートを1回実施しました。また、学校評議員のかたには、集計結果および改善策を2月4日に提示し、来年度の方針についてご助言をいただきました。

今後も、より質の高い教育を目ざして努力していきます。本校の取り組みに関心を深めていただいて、より多くのかたからの真摯なご意見をお待ちしています。

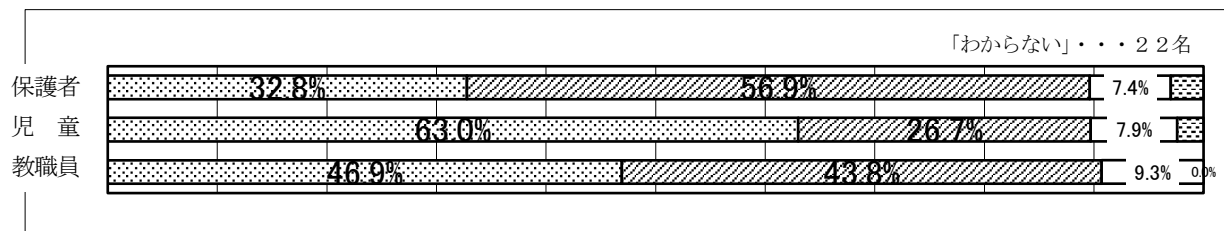
2 アンケート集計結果とその考察

保護者のかたへのアンケート集計では、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計（肯定群）で12項目中12項目が80%以上になりました。昨年同様、本校の取り組みに対して一定のご理解・ご支持をいただいていると考えています。

しかし、他と比べて評価の低い項目や三者の結果にずれがある項目、また「わからない」が多い項目については、「自由記述」に書かれたご意見も踏まえながら、来年度の計画づくりに反映させていく必要があると考えています。



① 学校は、子どもたちがすすんで挨拶できるような取り組みを行っている。

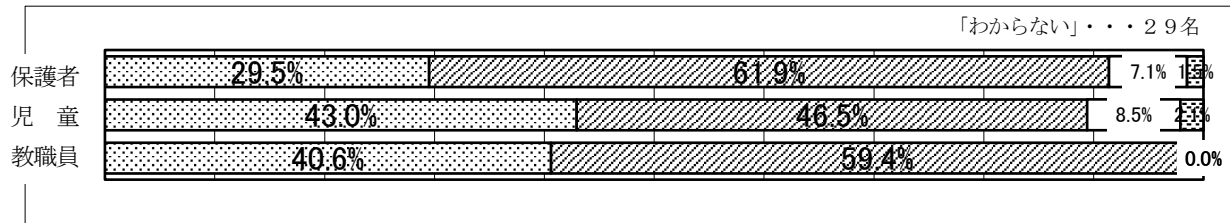


○保護者の肯定群が89.7%ではありますが、「A そう思う」の評価が、他の二者と比べて低い評価となっています。また、「集合場所や旗当番で、子どもたちが全くあいさつできないと感じています。うつむいたり、こちらが声かけしても、恥ずかしがったり。コロナ禍を終えた子どもたちにとって、いちばんの課題だと思っています。」「登校前の通学班の子たちに挨拶をしても返ってこないことの方が多く、挨拶をする意味が伝わっているのか疑問です。挨拶しなさいだけでは意味がないと感じます。なぜ挨拶が必要なのか、むやみに挨拶しない意味も含めて子どもたちに浸透するまで指導をお願いしたいです。」「挨拶をアピールする学校ですが、子どもたち全然できていないです。市内でもワーストクラスです。」など、登下校時の様子から子どもたちの挨拶の様子を心配する声をいただいています。しかし、児童の「A そう思う（挨拶ができています）」の割合は他よりも高く、子どもたちの満足感と実際の状況とは、ずれが生じている状態です。

本年度は、各学年の子どもたちが主体となって考えた「挨拶運動」を年6回、地域の皆様にご協力いただいた「校門挨拶運動」を年3回、全校体制で行いました。その期間中は、比較的元気のよい挨拶の声が飛び交い、挨拶することへの意識づけを行うことができたと感じています。しかし、成果もキャンペーン中だけにとどまり、挨拶が習慣化されるころまでには、至っていません。また、キャンペーンに参加できたことのみが、子どもたちの「挨拶ができた」という意識につながり、実際の状況とのずれが生じている現状となっています。やはり、教職員など身近な大人が手本

を示すとともに、挨拶を交わすことの意味やよさを、何度でも繰り返し子どもたちに伝えていく必要があると感じています。さらに、お世話になっている地域の皆様と子どもたちが交流できる機会を積極的にもっていくことも、自然な挨拶が地域に広がっていくために大切なことと考えています。今回いただいたご意見を真摯に受け止め、今後も気持ちのよい挨拶ができる子どもたちに育てていけるよう努めてまいります。ご家庭や地域の皆様に、ご協力をお願いすることも多々あるかと思いますが、よろしくお願いいたします。

② 学校は、子どもたちに他人と協調し、思いやる心や感動する心を育てている。



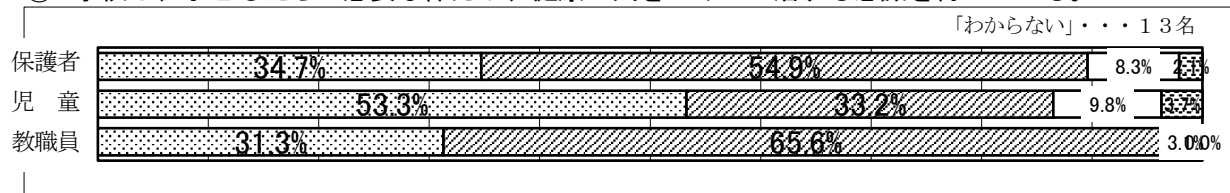
○9割以上の保護者より肯定的な回答をいただいています。「友達とのトラブルがあった時、どちらにも話を聞いてすぐに解決策を考えていただき、対応してくださったので、安心して学校に行けるようになりました。」などの声もいただきました。

本校では集団としての規律を大切にしながら、温かな雰囲気のある学級づくりに全校で取り組んでいます。今年の第2回学校保健委員会では、「栄小をふわふわ言葉でいっぱい」と題して、3年生以上の児童全員で、相手にかける言葉の選択や、ふわふわ言葉のよさを考えました。また、子どもたちのよい行いや思いやりのある行動を、帰りの会や学級活動などで認め合う取り組みを行うとともに、トラブルが起こった時には、互いの話をよく聞き、相手の気持ちも考えられるような指導に努めています。道徳の時間には、心に迫る教材をもとに話し合い、相手の思いを受け止めながら、お互いに自分の思いを語り合える場をつくっています。立場によって考えが変わることや、思うことは人それぞれであることを知り、他者理解とともに自己理解も深めています。日々の様子から本校の児童は、自分のことだけでなく相手や周囲のことを考え思いやる気持ちを大切にする子どもが多いと感じています。

また、読書活動にも力を入れています。図書館ボランティアや「子どもの本を読む会」の皆様が、図書館の環境整備や本の修理、本の紹介、読み聞かせなどの活動をしてくださっており、子どもたちの情操教育にご協力いただいています。さらに、運動会の表現や競争遊戯、学習発表会など、みんなで心をつなげて取り組む活動を大切にしています。

今後もこれらの活動を通して、お互いを認め、大切にすることを養うとともに、仲間とのつながりを感じ、安心して学校生活を送ることができる子どもたちを育てていきたいと思っています。

③ 学校は、子どもたちに必要な体力や、健康に気をつけて生活する意識を育てている。



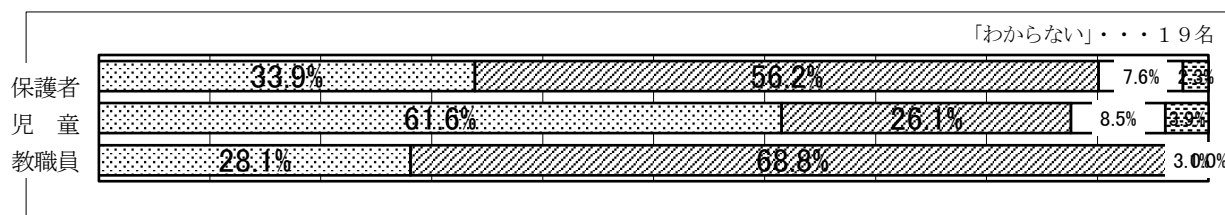
○9割近くの保護者から肯定的な回答をいただいています。また、「夏だけでも体育の後等着替えができる環境を整えていただきたいと思います。汗でびしょり濡れたまま1日過ごすのは不衛生で、すし、風邪をひきます。」などのご意見もいただきました。

体力面におきまして本校では、長放課における外遊びを奨励し、力いっぱい体を動かしたり仲間と一緒に遊びの楽しさを味わわせたりする中で、子どもたちの体力・気力の向上に努めています。天気の良い日には、子どもたちと外へ出て、一緒に遊ぶ教職員が多いことは、本校の自慢のひとつです。また、逆上がり検定や「栄マラソン」「栄ギネス」など、目標を掲げることで、それに向かって懸命に練習し運動する子どもたちを育てています。校舎大規模改修で運動場が狭くなったため、

順番に体育館を開放するという措置をとり、子どもたちの運動量と安全の確保に努めています。しかし本年度も猛暑で、熱中症対策のために外遊びが制限されたことも事実です。今後も子どもたちの安全を第一に考え、子どもたちの体力向上に向けて取り組んでいきます。

健康面におきまして、南丸生活チェックカードの取り組みに、いつも保護者の皆様のご協力をいただきありがとうございました。本年度の第1回学校保健委員会では、「みんなの生活と電子メディア～心も体も健康にすごそう～」と題して、メディアと睡眠の関係について学びました。睡眠は子どもたちの成長にとって大切なものです。ご家庭でも、メディアの使い方などを折りにふれてお声がけいただけたらと思います。また、ご意見をいただきました「体育授業の際の、着替え場所確保」につきましては、教室の近くの学年室を利用し、着替えをしたい児童が着替えられるように来年度から環境を整えてまいりたいと思います。貴重なご意見、ありがとうございました。

④ 学校は、子どもたちにとってわかりやすく、学ぶ楽しさや喜びを実感できる授業を行っている。



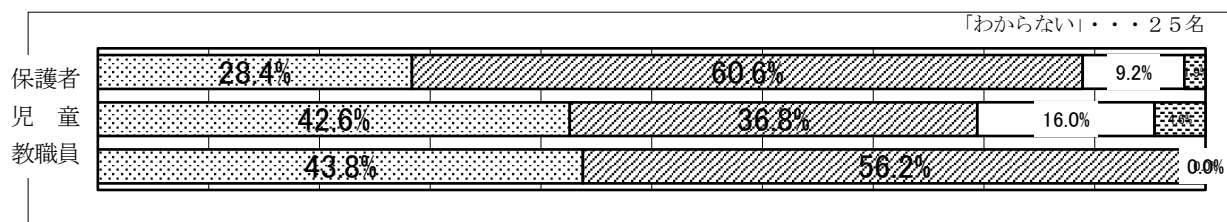
○約9割の保護者に肯定的な回答をいただいています。また、肯定群の中でも6割の児童が「先生の授業は、とても楽しくわかりやすい」と回答をしてくれていることは、うれしい限りです。しかし、1割強の児童が反対の回答をしていることも見逃すわけにはいきません。私たち教職員は、すべての児童に「楽しく学べ、わかりやすい」と感じてもらえるような授業を目ざして、絶えず研鑽していくことが必要であると感じています。保護者のかたからは、「担任の先生からは、子どもたちへの熱い思いを感じたし、どう楽しく知識欲を上げようか考え、精一杯教室運営されていると感じました。」「クラスによって指導方法に差があるように感じました。教科によって先生が代わるのはよいと感じました。」などの声をいただきました。また、教職員の言葉遣いなどについてのご指摘もいただきました。

本年度は、「個の学びの充実と、『ひと・もの・こと』とのかかわり合いを大切にし、学びを深める子どもの育成～『自分で考え、かかわり合い、振り返る』を1サイクルとした授業づくりを通して～」というテーマのもと、「自分の思いや考えをもてる子」「自分の考えを友達の考えと比較し、話し合える子」「振り返りにて考えを再構築し、次の学びに向かう子」を目ざしてきました。地域や生活に関わる教材で問題解決的な単元を仕組むことで、子どもたちの知りたいという思いが生まれ、主体的に学習を進めていくことができます。話し合う必然性のある問題を共有して考えを交流することで心に残る授業をつくろうと、全職員が、授業研究に積極的に取り組んできました。

今後も日々の授業を充実・改善していくよう、引き続き、日々研鑽していくことが大切だと考えます。これまで以上に基礎基本を大切にしつつ、体験的な活動や学習に取り組み、子ども一人一人の学びを保障できる教育環境づくりに努めます。

また、授業は子どもとともにつくっていくものであり、信頼関係の上に成り立つものと考えています。教職員自身も、子どもたちの気持ちを察したり言動に気をつけたりして信頼関係を築き、楽しくわかりやすい授業をつくっていくことができるよう努めます。

⑤ 学校は、子どもたちに知識や技能、自分で考え行動する力などを育てている。



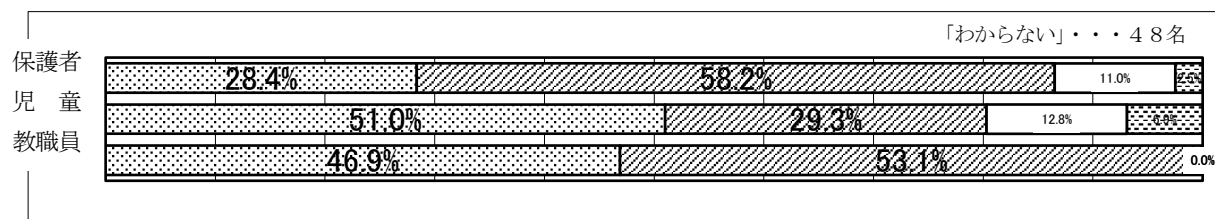
○9割近くの保護者に肯定的な回答をいただいています。一方で、「知りたいことや調べたいことがあるとき、自分から調べたり、だれかに質問したりできましたか。」という問いに対して児童の肯定的な回答が、8割弱にとどまっています。自分から調べたり行動したりする機会をもっと増やし、自分から動くことの楽しさを味わえるような学習展開の工夫が必要だと感じています。

「学期末に行う国チャレ、算チャレによって学力は向上しているのか。なくしたいです。小テストをこまめにやるなど、より定着する方法に変えてほしい。」「チャレンジテストでは、先生たちが子どもたちをよく支えてくれていると思います。」「子どもたちが、自分らしく、自分の個性を十分に発揮できる授業の展開をお願いしたい。」などのご意見をいただきました。

子どもたちの「生きる力」を育むためには、与えられた知識や技能を身につけるだけではなく、自分で考え、行動する力を育てていくことが必要です。得た知識や技能を活用したり、わからないこと、疑問に思ったことを自分の力でどんどん調べていくことができる力が身につけば、個々の学びは自ずと広がっていくはずです。そのために本校では、単純に知識だけを得るのではなく、生活の中で使える力になるように、学習の進め方や扱う内容について工夫した「問題解決的な学習」に取り組んでいます。例えば、本年度のSDGsを扱ったみどり学習では、持続可能な社会を創るためにできることを調べ、考え、校内に手作りのごみ箱を設置するという子どもたち発案の活動につながりました。このように、子どもたちが主体となって学習を進めることで、自ら考え行動する力を伸ばしていきたいと考えています。この学習を充実させるためには、個の学び（一人調べ）と協働的な学び（かかわり合い）の両方が大切です。一人で調べたことが、かかわり合うことによって広がり深まったり、また次の学びに進んだりするからです。今後も、タブレットなどのツールを活用しながら主体的に調べる力を伸ばすとともに、「お話タイム」で話し合う力を育み、個性を発揮しながら自ら考え行動できる児童の育成を目指していきます。

チャレンジテストに関しましては、学力が定着する方法を、さらに検討していきます。

⑥ 学校は、子どもたちが通いたくなる（親が通わせたい）学校づくりを推進している。



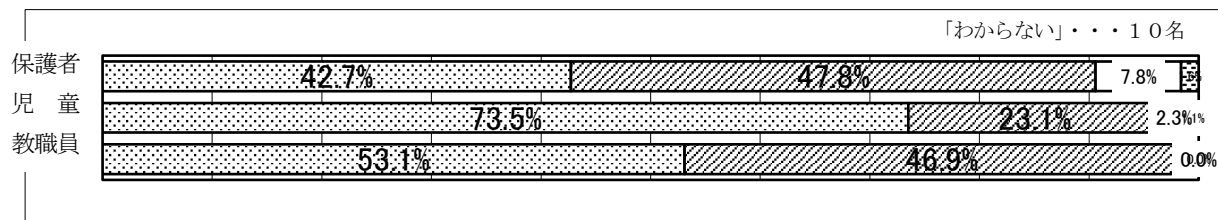
○8割以上の保護者・児童が肯定的に回答しています。しかし、2割弱もの子どもたちが、「学校は楽しい」と回答できなかったことに対しては、たいへん重く受け止め、早急に改善を図ってまいります。保護者のかたからは、「春はクラス替えに不安がありますが、いつの間にか、学校が楽しくて仕方がない！行事が楽しかった！と親としては満足いく言葉を貰っています。

日々、たくさんの先生がたから声かけをしてもらっている様子で、本人も見守られている安心感があるようです。ありがとうございます。」「ラーケーション休暇もとりたいくらい楽しく学校に行けています。感謝しています。」「子どもたちのことを思い、日々全力で考え、向き合い動いてくださっている先生がたの姿に日々感謝しかありません。栄小に通えて我が子は本当に幸せだと思います。いつもありがとうございます。」「のびるんのお迎えの時に、時折先生方とすれ違うことがあるのですが、親だけではなく下の子にも元気に挨拶をしてくださり子どもたちのお手本となるかたばかりでとても素敵な学校だなと思います。」などのうれしいお言葉をいただきました。一方で、子どもへの接し方に対するご指摘もいただきました。

本校では、「心のふりかえり(児童アンケート)」や日頃の生活の様子を観察するなかで、担任が積極的に面談を行い、子どもたちの不安を取り除く努力をしています。そして、子どもに向き合う時間を大切にし、話を聞いたりよいところを認め励ましたりして信頼関係を深めてきました。また、全職員で全児童を支援していけるよう、毎月1回は必ず生活サポート委員会や児童理解の会を行い、共通理解を図るとともにその対応策を検討しています。

魅力的な学校であるためには、魅力的な教職員集団であることが最も大切だと考えています。さらに今後は、授業力向上のための研修を充実させたり、子ども一人一人の心の居場所がある学級経営のあり方を学んだりしながら、教職員が一丸となって資質能力の向上に努めてまいります。

⑦ 学校は、子どもたちの登下校の安全確保のために家庭・地域と連携しながら取り組んでいる。



○9割以上の保護者のかたに肯定的な回答をいただいています。「登下校はまだ危険なところがたくさんあります。旗当番は否定的な意見もありますが、できればこれからも続けていただきたいです。」「野外や修学旅行で班長副班長高学年が不在で低学年が班長になる場合、通学団担当先生が見回る必要があると思います。野外では、三年生が班長でした。」「月末の豪雨で下校が早まった日、児童クラブへ行くはずの子どもが手ちがいにより通学団下校となり家に入れないことがありました。」「旗当番は自分の子どもが通る場所にしてもらいたい。」などのご意見をいただきました。

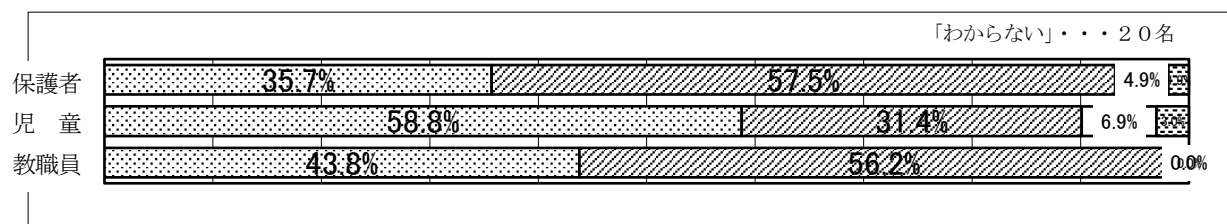
日頃はお忙しい中、保護者の皆様に交通旗当番として児童の登校を見守っていただきありがとうございます。また、栄小児童見守りボランティア隊(PTA)や校区子ども見守り隊(自治会)、民生・児童委員の皆様にも、交通指導やパトロール活動を行っていただき感謝しております。ボランティアで、登下校の見守りを毎日行ったださる地域のかたもいらっしゃいます。教職員については、登校時の立ち当番を月に2、3回、3か所で行い、校長は南部中南西角の横断歩道で、毎日子どもたちの登校を見守っています。町中の校区であるため、通学路に危険な箇所も多く、子どもたちの安全確保のためには、見守りが必要不可欠な現状です。今後もご協力をお願いいたします。PTA旗当番の方法については、PTA役員ともよく話し合い、よりよい方法を検討していきたいと思っています。

緊急下校時の下校場所については、今後はまちがいないよう、クラス名簿に情報を書き込み、担任だけではなく学年でも二重に確認をするようにしていきます。また、緊急時の急な下校場所の変更などは、今後、「デンタツくん」を利用していきます。「こちらから指示のあった場所」に、保護者のかたが指定時刻までに変更を打ち込んでいただくことで可視化し、まちがいのないようにしていきます。

学校では、月1回程度、通学班長会を実施し、各通学班の現状を把握したり班長の困り感を解消したりして、集合時刻などの諸問題を早期対応できるようにしています。今後も旗当番やパトロール活動で心配されるできごとがあった場合は、学校にお知らせください。その都度、全教職員で共有し、全児童に知らせたり、関係する児童を集めて具体的な指導をしたりしてまいります。

また、欠席や遅刻をする場合は、必ず通学班の子どもたちに知らせてください。班長と副班長が班員の学級を4月に把握いたしますが、学級閉鎖などで登校しない場合も、本人や保護者のかたから班員に連絡をしていただけると安心です。閉鎖となる学級が高学年で班長不在となる場合は、事前に通学団担当が、班を合体させるなどの措置をとっていきます。危険と判断した場合は、職員も通学路に出向きますが、近くにみえる大人のかたも子どもたちの安全確保を気にかけていただけるとたいへんありがたいです。

⑧ 学校は、子どもたちが安心・安全に生活できる環境づくりに努めている。



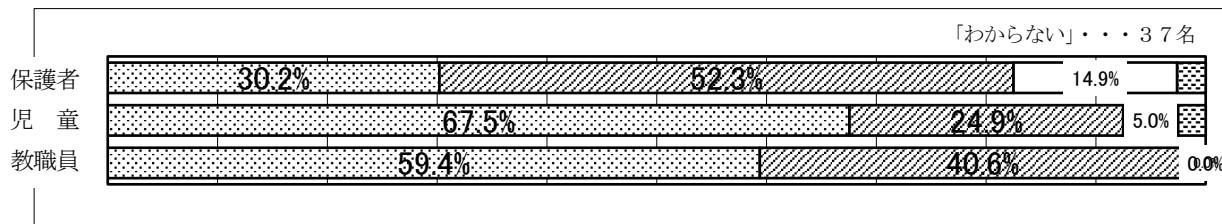
○9割以上の保護者の方から肯定的な回答をいただいています。「給食の牛乳パックの解体を、当番の子にさせるのはやめてほしいです。インフルエンザやコロナなども含め、衛生的に心配です。」「トイレの掃除など、感染面でリスクがある所は業者に依頼して欲しいです。」「給食の牛乳、パンにつけるチョコクリーム、ミルメーク、砂糖の入ったデザートをなくしたいです。」「プールを解体して駐車場にしてほしい。」などのご意見がありました。

校舎大規模改修により、保護者や地域の皆様には、駐車場などでご迷惑をおかけしております。来年度は、南校舎改修の予定です。本年度は、運動場の使える範囲が狭くなったということで、子どもたちの安全確保のために、体育館を順番に開放したり、遊びのルールを全校で確認したりしてきました。けが防止のために、廊下を走ったり校庭の遊具で走ったりしないよう、ご家庭でも声をかけていただけると助かります。

ご指摘のあった「給食の牛乳パックの解体・洗浄」に関しましては、「自分のものは自分で行う」ということを全学級で統一していきたいと思います。トイレ掃除や給食の献立については、関係諸機関にご意見を伝えさせていただきます。

学校では、月1回の教職員による安全点検の結果をもとに、子どもたちの安全にかかわる緊急性の高い箇所から修繕をしたり、要望を市教育委員会へ提出したりしています。「プールを解体して駐車場にする」という件も、市に要望しています。しかしながら、配当されている予算には限りがあり、思ったように整備が進まないというのが実情です。本年度は、これまでにガラス取替補修、支援学級間仕切りカーテンレール設置、北校舎トイレ入り口カーテン設置、ターザンロープ木製遊具撤去、正門門扉補修、中校舎西階段防火設備バッテリー取替などを行いました。また、市の予算で体育館バスケットゴール取替補修工事を行っていただきました。ご理解いただけますようお願いいたします。

⑨ 学校は、お子さんのことについて気軽に相談できたり、適切なアドバイスをしてくれたりしている。



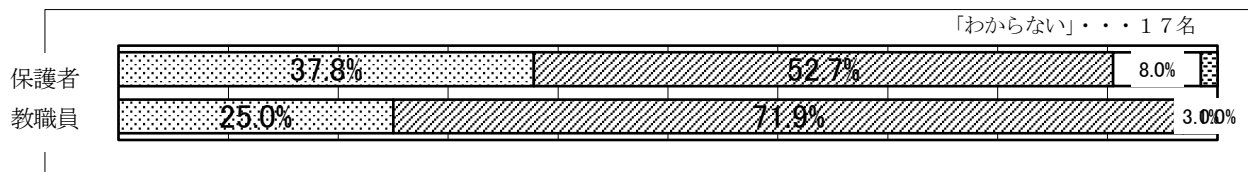
○8割以上の保護者・9割以上の児童が肯定的に回答しています。「先生との懇談会を通じて子どもの新たな一面を知り、初めて子どものこれからをわくわく感じました。改めて先生が子どもの成長を応援し、見守ってくれているのだと思いました。」「子どもの話をきいてくれたり、対話してくれたりすることで、先生への信頼が増し、毎日安心して学校へ通えています。」「懇談会で、10分の時間をいただきますが、子どもによっては短く感じます。」などの声が寄せられました。

学校では「子どもや保護者の皆様の声に耳を傾ける姿勢」を職員全体で共有し、常に相談者の立場に立って話を聞くよう心がけています。今後も、子どもや保護者のかたから理解が得られるような対応に努めてまいります。懇談会の10分だけでなく、事前にご相談いただければいつでも時間をつくります。お子様のことで気になることがありましたら、遠慮なく学校にお問い合わせ

わせください。

学校だけでなく専門機関との連携が必要なケースもありますが、学校が最初の相談窓口として声を届けていただくためには、保護者との信頼関係をさらに強めていくことが何よりも大切だと考えています。子どもたちの様子は担任がいちばんよく知っていますので、まずは担任に相談してほしいと思います。しかし、担任に相談しにくい内容や担任には話しづらい場合は、学年主任や校務主任（生活サポート主任を兼務）が対応しますので、声をかけてください。なお、学校はスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、にじの子相談など専門機関への橋渡しも行っています。

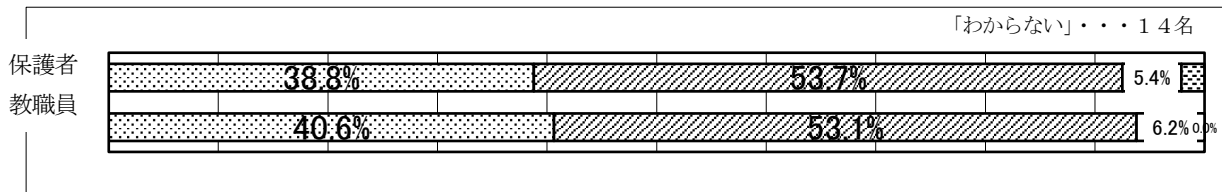
⑩ 学校は、今年度重点的に取り組んでいる内容が伝わるように努めている。



○9割の保護者のかたに肯定的に回答していただきました。お忙しい中、学校からの資料や配信を気にかけて見ていただきありがとうございます。

学校としては、『PTA総会の資料』に学校経営方針として今年度の重点目標などを掲載させていただいたり、『学校新聞』や『デンタツくん』『栄小ホームページ』を通して学校の取り組みをお知らせしたりしてきました。今後も「どんな学校を目ざしているのか」「栄小教育の特色は何か」をより明確にし、一人でも多くのかたに内容がよりよく伝わるように工夫して一層の努力をしていきます。また、この『学校教育目標の実現を目ざす営みを、確かなものに』や、『学校新聞』における学校評価の結果や今後の改善方策の公表もその一つと考えています。

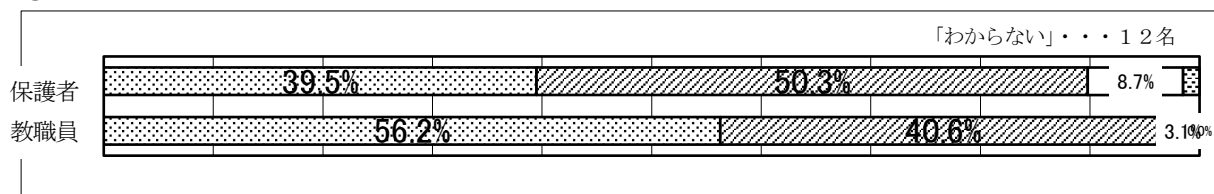
⑪ 学校は授業や行事等を参観したり、話し合ったりする機会を適切に設けている。



○9割以上の保護者のかたから肯定的な回答をいただいています。「学校公開日は、一コマ指定された授業でなく、他の時間の様子も見てみたいと思います。」「学校公開日は、終日学校を開放してほしいです。」というご意見をいただきました。また、学校に出向いていただく回数については、「授業参観を圧倒的に増やしてほしいです。」「学校行事が多く、子どもの様子が見ることができるのはありがたいが、多すぎて仕事を休むのが大変です。」などと、相反するご意見をいただきました。また、「運動会をコロナ禍以前のように戻してほしいです。」というご意見もいただきました。

いつもお忙しい中、授業参観や学校行事、懇談会などご来校いただきありがとうございます。ご要望いただきました9月の学校公開日におきましては、一時間だけではなく、もっと多くの時間が公開できるようにしていきます。また来年度の他の学校行事の内容については、いただいたご意見なども参考にしながら、今後検討してまいります。

⑫ 学校からの文書やたよりはわかりやすく、タイムリーである。



○ 9割近くの保護者のかたに肯定的な回答をいただいています。

「デンタツくん」アプリについて、「デンタツくんでのおたより配信が便利で助かっています。また、欠席、遅刻早退の連絡が電話でなくデンタツくんでも可能なのも助かっています。今後も続けてほしいです。」「デンタツくんは、おたよりとお手紙の違いがわからないし、わかりにくいです。」「デンタツくんアプリは過去のお手紙やおたよりの検索ができず使いづらく感じます。」などのご意見をいただきました。

また、「年間スケジュールは頂いておりますが、イベントにより下校時刻が通常と違う場合、もう少し早くお知らせいただけると助かります。」「子どもに渡すプリントをデンタツくんでも配信していただきたいです。どこでも確認できますし、子どもがプリントを渡しそびれていることもあるため。」「野外活動の子どもたちの様子を配信してほしい。」などのご要望もいただきました。

学年通信に関しては、「子どもから学年だよりが出てこないの、デンタツくんでも配信していただきたい。」「各教科、今こんなこと学んでいるというのが、学年通信等でわかるとよい。（子どもが話さないとわからない。書いてあると話すきっかけになる）」「課外活動など、どのように楽しんだか、振り返ったものをもっとデンタツくんでも共有してほしいです。」などのご意見をいただきました。

本年度より、学校からの情報発信を「デンタツくん」というアプリに変更させていただきました。登録などのご協力、ありがとうございました。学校といたしましては、今後もこのアプリを使用していく予定です。ご意見をいただいた「使いづらさ」については、アプリ開発業者に要望として提出し、可能な限り改善を図っていきたいと考えています。

《「お手紙」と「おたより」の使い分けについて》

現時点での「デンタツくん」アプリは、「お手紙」が文章を配信するもので、「おたより」がPDFなどのデータを配信するものとなっています。「おたより」に見出し程度の短い文章を載せることは可能なのですが、説明の長い文章と一緒につけることができない構造になっています。それゆえ、「お手紙」で説明を載せ、「おたより」でPDFを貼りつけるという配信の仕方になっていますので、ご了承願います。今後、一つにまとめることができるよう、要望していきます。

《学年通信について》

本年度は、デジタル化初年度ということもあり、学年通信は従来通り紙面にて配付させていただきました。今回、データでほしいというご要望が多かったこととペーパーレス化を進めるという点から、来年度より「デンタツくん」で「おたより」に配信させていただきます。情報発信は、ご家庭との信頼関係づくりの基盤となるものです。日頃の子どもの生活ぶりや学校の取り組みをこまめにお知らせし、学校と家庭がともに健やかな子どもたちを育てていくよう努力する必要があると考えています。いただいたご意見を参考に、学校の様子がより保護者の皆様に伝わるような内容となるよう、できる限り努めてまいります。

また、栄小学校ホームページでは、『校長室より』において学校の様子をタイムリーにお知らせしています。この中で、学校生活のさまざまなできごとについて、校長が文章と写真で紹介していますので、ぜひご覧ください。

今後も、写真や個人名をホームページやプリント、メールに掲載することに関しましては、個人情報の観点から慎重に扱っていきますので、ご理解をお願いします。

3 保護者からのその他のご要望「Q & A」・ご意見

本校に寄せられた要望や意見に対し、「2 集計結果とその考察」において学校としての考えを回答してきましたが、ここでは、その他のご要望については「Q & A」としてまとめ、ご意見に関してはそのまま載せさせていただきました。また、PTA に寄せられたご意見につきましては、PTA 役員に伝えさせていただきました。

今後も皆様からのご要望やご相談には、誠意をもって対応してまいります。お気づきのことがありましたら、その都度遠慮なく学校までお申し出ください。

Q1

- ・冬にプールは寒いので、夏にしたほうがいいと思います。

A1

- ・市の方針により、昨年度より自校のプールを使用せず、本校はミラまちの「アイレクススポーツ」の温水プールを使用させていただき水泳の授業を行っています。「アイレクススポーツ」を利用するのは本校だけではなく、他校と日程を調整しているため、今年は11月に水泳授業を行う学年が出ました。なるべく夏に近い時期を要望しますが、そうでない時期にあたることもありますので、ご了承ください。その場合は、授業後に、体や髪をよく拭くなど、風邪をひかないように配慮をしていきます。

Q2

- ・夏休みの宿題(日誌、自由研究、ポスター、感想文等)の全員提出をなくし、希望者のみが出す方向に変えていただきたい。
- ・読書感想文について希望者のみの検討をお願いします。学校でも長文を書かせておらず、親にとっても子どもにとっても負担であり、本嫌いにさせるだけだと思います。

A2

- ・子どもたちの個性を尊重し、自主性を伸ばし育てるという観点から、来年度より、夏休みの課題のうち、自由研究、ポスター、読書感想文、作文は、自由参加にしていく方向で考えています。長い夏休みです。ぜひ、子どもたちの個性が生かされるよう、有意義に時間を使ってほしいと思います。

Q3

- ・マラソン大会の日と予備日のお弁当は保護者の負担が大きいのので昨年度までと同様に給食にしてほしいです。

A3

- ・今年は、運動場にプレハブ校舎や砂利道の職員駐車場がある中でマラソン大会を実施いたしました。給食の配膳車が入ってくる心配をなくすことで、砂利道を走る子どもたちの安全を、職員が重点的に見守ることができると考え、当日は「給食なし」とさせていただきました。本年度、新しいコースで行ってみて、教職員の配置人数を増やせば、従来通りの方法で行うことができることを確認いたしましたので、来年度からは「給食あり」とさせていただきます。ただし、子どもたちの安全を第一に考え、配膳車が来た時はスタートを遅らせていただきますので、ご了承ください。

Q4

- ・競書大会やマラソン大会で、上位の子がいつも一緒なので、例えば、順位を 20 番上げたら努力賞とか、万年、下位の子でもがんばれる仕かけづくりをしてほしいです。

A4

- ・なにごとに目標をもって取り組むことは、とても大切なことです。子どもたち一人一人が、それぞれの行事に対して目標をもって前向きに取り組むことができるよう、検討していきたいと思います。また、保護者のかたの声かけが、お子さんにとっていちばんの励みになります。それぞれが目標をもてるよう、ご家庭でも支えていただけるとありがたいです。

Q5

- ・遠足を年に 1 回は行かせてほしい。

A5

- ・校外で見聞を広める機会は、子どもたちの学びにたいへん重要です。学校としましては、全校一斉の「遠足」という形ではなく、各学年の発達段階や学習に合わせた「校外学習」を充実させていきたいと考えています。本年度は、「公園探検」「校区探検」「消防署見学」「わくわく学習」「工場見学」「戦争遺跡見学」など、それぞれの学年ごとに校外へ出て、楽しみながら学びを深めてきました。来年度も、子どもたちの発達段階や学びに合わせて、価値ある校外学習を積極的に実施していきます。ご理解とご協力をお願いいたします。

ご意見 1

- ・YouTube や TikTok の話で、子どもたちが盛り上がっているようです。流行りに乗れなかったり、話自体に中身がなかったりします。親が学校に意見するのもまちがっているかと思いますが、とても気がかりです。

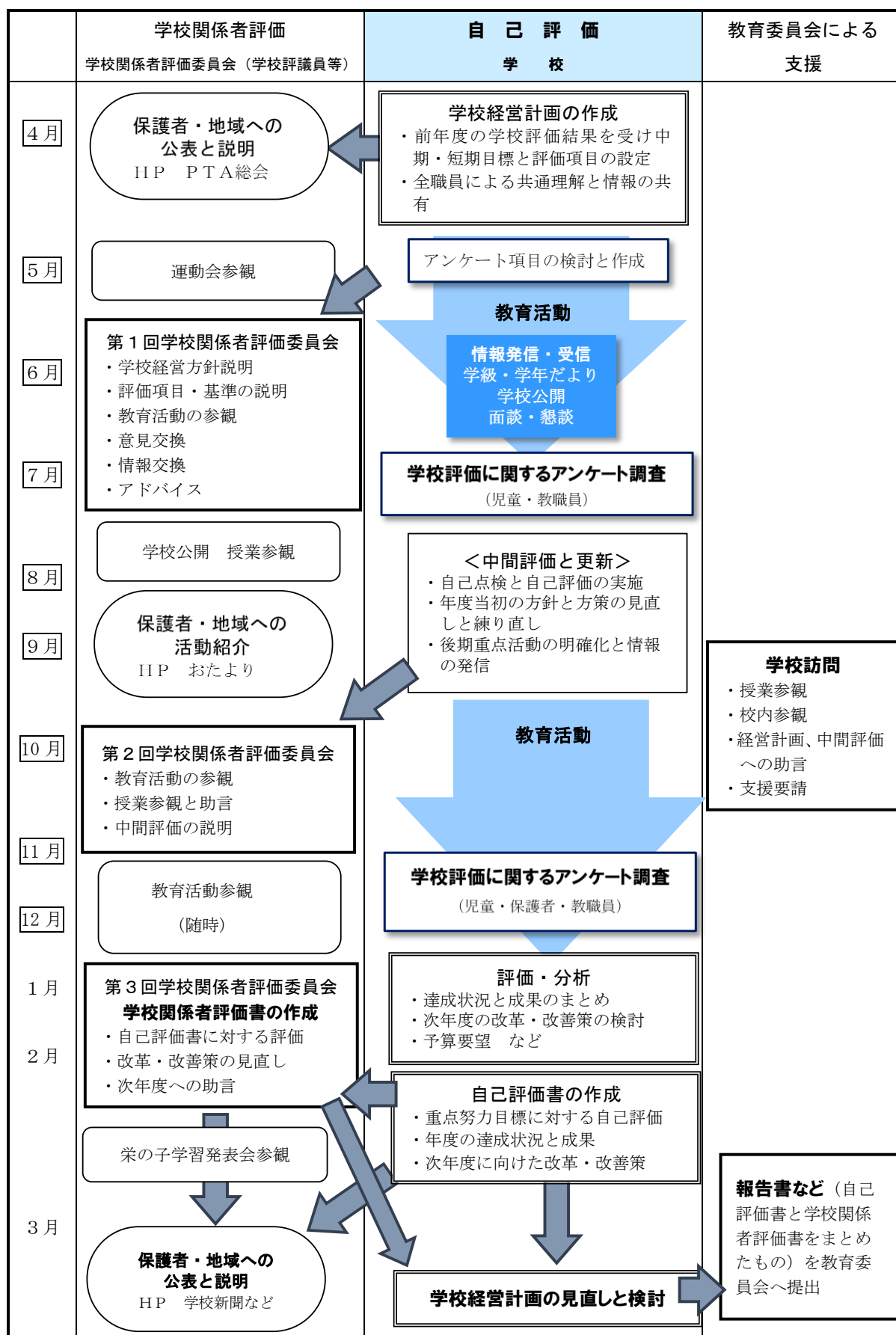
ご意見 2

- ・学校や先生はよくがんばってくださいと思っています。このようなアンケートで保護者の評価に惑わされないでほしいと思います。保護者も学校や先生を上から評価するのではなく、協力して、子どもたちの主体性を信じ、形ではなく子ども一人一人の心の動きを愛をもって見守っていききたいですね。このようなアンケートも何だか違和感を感じてしまいます。先生がたも無理せぬよう、子どもたちとの日々を楽しんでほしいです。評価にさらされる世界ではなく、のびのびと自由な世界を共に子どもたちにつないでいきましょう。

4 おわりに ～子どものよりよい姿を求め～

学校は、子どもたちの健全な成長のために、今後も家庭や地域と一体となって教育を推進していくことが大切だと考えております。そのため、学校の果たすべき機能をどの程度果たしているかを総合的・客観的に評価し、その結果を学校運営の修正や改善に生かしてまいります。

来年度も、保護者・児童・教職員の調査結果を有効に活用することで、栄小の子どもたちを学校教育目標で示されている姿に近づけていきたいと考えています。今後も、子どもたちはもちろん保護者の皆様からも信頼される、より質の高い教育を目ざして、全職員一丸となって取り組んでいきます。より一層のご支援をお願いいたします。



資料2

アンケート調査項目

教職員と児童や保護者に対するアンケート項目をリンクさせ、その「相違点」を分析・考察することにより、学校課題をより明確にできるようにしています。

	項目	保護者	児童（※2）	教職員
豊かな心	①	学校は、子どもたちがすすんで挨拶できるような取り組みを行っている。	時と場合に応じて、挨拶をしている。	子どもたちが、すすんで挨拶するための手だてを講じている。
	②	学校は、子どもたちに他人と協調し、思いやる心や感動する心を育てている。（※1）	相手の気持ちを思いやり、みんなと力を合わせることができた。	子どもたちに他人と協調し、思いやる心や感動する心を育てている。（※1）
体力・健康増進 向上	③	学校は、子どもたちに必要な体力や、健康に気をつけて生活する意識を育てている。（※1）	自分のめあてに向かって、すすんでうんどうした。	子どもたちに必要な体力や、健康に気をつけて生活する意識を育てている。（※1）
確かな学力	④	学校は、子どもたちにとってわかりやすく、学ぶ楽しさや喜びを実感できる授業を行っている。	先生の授業は、楽しく、わかりやすい。	基本的事項の確実な定着を図るとともに、学ぶ楽しさや喜び、成就感を体得させるような授業を実践している。
	⑤	学校は、子どもたちに知識や技能、自分で考え行動する力などを育てている。（※1）	知りたいことや調べたいことがあるとき、自分から本やタブレットで資料や情報を集めたり、だれかに質問したりできた。	子どもたちに知識や技能、自分で考え行動する力などを育てている。（※1）
安全・安心な学校づくり	⑥	学校は、子どもたちが通いとなる（親が通わせたい）学校づくりを推進している。	学校へ来るのは、楽しい。	学校が好きな子どもを育成する学級経営や安全安心な学校づくりに努めている。
	⑦	学校は、子どもたちの登下校の安全確保のために、家庭・地域と連携しながら取り組んでいる。	安全な登下校ができ、放課は安全に気をつけて過ごせた。	子どもたちの交通安全、防災、防犯についての指導は、計画的になされている。
	⑧	学校は、子どもたちが安心・安全に生活できる環境づくりに努めている。	いつも安心して学校生活が過ごれている。	学校が子どもたちの学習や生活の場としてふさわしい環境であるように手だてを講じている。
	⑨	学校は、お子さんのことについて気軽に相談できたり、適切なアドバイスをしてくれたりしている。	先生は、困ったときに話を聞いてくれる。	一人一人の子ども話を聞いたり、よいところを認め励ましたりして信頼関係を強くしている。
開かれた学校	⑩	学校は、今年度重点的に取り組んでいる内容が伝わるように努めている。		教育目標や経営方針がよく理解されるような手だてを講じている。
	⑪	学校は授業や行事等を参観したり、話し合ったりする機会を適切に設けている。		学校公開日の時期、内容は、適切・十分である。
	⑫	学校からの文書やたよりはわかりやすく、タイムリーである。		文書やたよりは、保護者のニーズにあった内容で、時期も考えて出している。

（※1） 第6次豊橋市総合計画の指標に関するアンケート項目です。

（※2） 児童は3～6年生がアンケート実施しています。